

今日のキーワード「シェールオイル」業界の動向（グローバル）

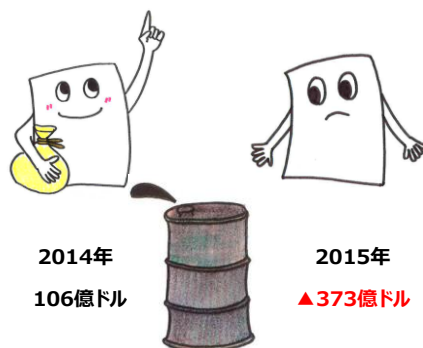
「シェールオイル」は地中のシェール（頁岩＝けつがん）層に含まれる石油のことです。新たな石油掘削方法の開発により、米国を中心に近年急速に生産量を伸ばしています。この結果、米国の原油生産量は過去5年程度で2倍近くに増加し、サウジアラビアを抜き世界一の産油国になりました。最近の原油安の背景は、「シェールオイル」の増産と、それに対抗するサウジアラビアの価格戦略が大きいと言われています。

ポイント1 なかなか減らない「シェールオイル」の生産 技術進歩と、リグ稼働が減退しないことが背景

- 原油価格の下落に合わせて、北米の新たな石油油田の掘削施設数（リグカウント）は、ピーク時の4分の1に減少しています。それにもかかわらず米国の原油生産量は、ピーク時の日量960万バレルから910万バレル程度にまでしか減少していません。この結果、原油価格の下落⇒リグカウントの減少⇒原油生産の減少⇒原油価格の上昇といった、従来のサイクルが機能しないのが現状です。
- これは、技術進歩により、既存の油田からの生産が減退しないうえ、「シェールオイル」油田の中には、現在遅れて稼働し始めたものもあることが背景です。

ポイント2 「シェールオイル」企業の決算は大幅な赤字に転落 7社合計の赤字は4.2兆円に

- 一方で、「シェールオイル」企業の収益は、原油価格の下落から大幅に悪化しています。主要7社合計の純利益は、2014年の106億ドル（1兆1,926億円）の黒字から、2015年には373億ドル（4兆1,966億円）の赤字に転落しました。
- この結果、各社の財務内容は急速に悪化しています。企業によって異なりますが、現状の30ドル台の原油価格では、「シェールオイル」企業の存続は難しいとの見方が優勢です。



（注）数字は米国の主要シェールオイル7社の純利益合計額。
2015年は赤字。

（出所）各社の決算資料より三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 設備投資の縮小で今後は減産進む

- **2016年の設備投資は半減へ**
「シェールオイル」企業の多くは、設備投資により生産量の拡大に注力してきました。収益の悪化に伴い、設備投資の削減の動きが顕著になってきました。7社合計の設備投資金額は14年の404億ドルから、15年には239億ドルに、16年の計画では125億ドルと前年比ほぼ半減になる見込みです。

■ 今後は減産が本格化か

これに加えて今年は、稼働を待つ油田も早晩なくなると考えられます。このため、現状の原油価格が続けば、今後は米国の原油生産の減少ペースは速まる可能性があります。

ここも チェック！

2016年 2月19日 資源価格の動向 原油は産油国の減産、銅は中国の景気がカギ
2016年 1月20日 「OPEC」と「シェールオイル」（グローバル）

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。